

D-I-13 人工呼吸に関連した Long Term Acute Careの取り組み

医療法人 井上病院 人工呼吸センター

○岡村 篤, 石谷利光, 福田正人, 山村剛康

【目的】救命センターや集中治療室において、超急性期を脱し長期人工呼吸を必要とする患者が発生した場合、在院日数の制限や限られたベット数の有効利用等の点から、長期間人工呼吸を継続することがしばしば困難である。これらの患者はその後、一般病棟で人工呼吸を継続されることとなる。然るに一般病棟における人工呼吸には医師・看護師を含めた管理体制、モニタリング等、必ずしも人工呼吸に適した状況ではない場合がある。この問題解決のため、人工呼吸に関連したLong Term Acute Care (LTAC)の体制を構築する。【方法】麻酔・集中治療・救急医療を経験した医師4名が約55床の一般病床を運営し、うち約40床を人工呼吸病床とした。各ベッドサイドには患者生体情報モニターを配置し、ナースセンターではセントラルモニターで全ベットの患者生体情報の遠隔モニターを行った。看護体制は1名の看護師が8から9名の患者を受け持つ他に、入浴介助・CT等各種検査を受け持つ看護師を別途配置した。理学療法士を2名、看護助手15名を配置した。【成績】診療開始後、患者数は徐々に増加し、約1年で常時満床となり、現在は入院予約待ち状態が続いている。患者紹介元は札幌市内の2つの大学病院のほか、市立病院救命救急センター、心臓血管外科病院、脳神経外科病院等、多岐に渡っている。【結論】人工呼吸に関連したLTACに対する社会的需要の高さが明らかとなった。